

➤ 関係者が当初段階から大きな目標を共有していれば、利害の違いを乗り越えることが可能。

知恵袋

「オール京都」という発想で、出資者がリスクを負い、新路線開業を実現した

⇒ **中心商業地区活性化のため、商業者が主体となりバスを運行【京都市】**

- ・ 祇園の商店街は、京都まちづくり交通研究所の出資者が属する商店街組織とは別の地域にあたるが、河原町だけが良ければそれでよいという考えを持たず、「オール京都」という発想で、ぎおん・よるバスという新路線を開業するに至った。
- ・ 京都まちづくり交通研究所の代表が、京都商店連盟の副会長であり、他地域の商店組織と、うまくコミュニケーションできる環境が整っていたことも、新路線開業に大きく寄与している。